



山形大学人文学部
「連合山形寄付講座」

第2回 (2020.10.12)
労働組合の今日的役割

2020年度後期
「労働と生活」

連合山形とは 労働者福祉団体とは

小口裕之 (連合山形 会長)

はじめに

自己紹介の時だけマスクを取りたいと思います。皆さんこんにちは。ご紹介いただきました連合山形という労働組合の集まりですけれども、小口と申します。今日は良い時間を皆さんと過ごしたいなと思っておりますのでよろしくお願いをしたいと思います。

安田先生からもお話がございましたが、是非皆さんにも聞いてみたいという問いかけもありますので、それを書いていただきながら、皆さんとの交流もできればと思っています。私もずっと一人で喋りっぱなしというのはあんまり得意じゃないと言うか、好きじゃないと言うか。25、6年間ぐらいは小学校の教員をしておりまして、その間で、教員を休んで労働組合の活動に専念したりして今に至っています。小学生と勉強していましたので、どちらかと言うとキャッチボールしながら授業するとそういう感じでした。是非そんな感じで今日出来ればと思います。点数になるところと、ならないところがあるようですので、是非、点数になるところはしっかり頑張っていたら、あとは少し気軽に聞いていただければと思います。

1 連合山形とは

「連合山形」と紹介していただきました。「連合山形」名称を書くときこんな感じです。「日本労働組合総連合会山形県連合会」(板書)という長い名称ですが、それを略して「連合山形」と言っております。安田先生から、どういう労働組合が集まっているかというのは、大体話があったと思います。私はさっき言いましたが、山形県教職員組合という、小学校・中学校に勤務する教員、学校事務の皆さん、給食センターなどで月の献立を作っている栄養教諭の方とか、あとは保健の先生(養護教諭)などなど、いろんな方々が集まっている労働組合です。入るのも自由、抜けるのも自由という個人の自由を尊重している労働組合です。今の県内の小学校・中学校には、「山形県教職員組合」に入っている先生方と入っていない先生方もいる状況です。私は山形県教職員組合という労働組合で運動していました。この連合山形にはいろんな労働組合の皆さんがいらっしゃいますので、一緒に連合山形の運動を皆で広げていこうと頑張ってきているということでもあります。今、その連合山形の会長を務めさせていただいています。

次の講座からはもうちょっと具体的に、公務員の労働組合や民間の労働組合、電力関係であるとか、電機関係であるとか、製造業関係、あとはヤマザワさんとか、いろんなサービス業が集まっています。UAゼンセンと言いますが、そういった職場で働いている皆さんの労働組合から、あとは金融関係ですね、東北労働金庫とか、あとは共済です。自動車共済とか、そういった働く者の様々な共済をやっている「こくみん共済coop」といいます。そういったところから、皆さんに是非知っていただきたいという中見で、詳しく具体的な話があります。今日は概略と言いますか、どんな話が始まるのかなといった感じで聞いていただければと思います。

「連合山形」聞いたことがあるという人、何人かいますね。初めて聞きましたという人、はい。あまり知られていないとなると、今日は本当にお邪魔して大変良かったなと思います。連合山形という労働組合のナショナルセンターですが、県内の労働組合運動の中心になっている団体でありますので是非覚えていただきたい。次からはそういった連合山形に結集している様々な労働組合が、具体的にいろんな労働組合の課題であったり、頑張っていることであったりなどの話をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

初めて聞いた方は大変だと思いますが、連合山形はどんなことをしている労働組合だと思いますか。何でもいいので。ラジオなどで聞いたことあるとか、何もありませんか、何も浮かばない。連合山形。何も出ないとちょっとさびしいですね。仙台の方から山大に来ていますという人いますか。高速バスで来ています、あっ、違う。そうですか。バスに乗っている方いらっしゃいますか、乗っていない。そうですか。たまにラジオ放送で流したりしているのですけども、「連合山形です」とか聞いたことないですかね。そう言われれば聞いたことあるなという人いますか。はい。ちょっと挙がらないですね。

今日、私を与えられたのは「労働組合の今日的な役割」とありますけれども、その前に今年はコロナ禍ということで大変な思いをなされたと思います。なかなか私達も力にはなれないのですけれども、さっき安田先生とも話をしましたが、今、山形県で「新型コロナ・ウイルス克服・創造会議」という会議を作っております。医療関係、産業関係、会社の経営者の方などと一緒に参加しています。私達は労働組合ですから、労働者の解雇や雇止めなどの状況を述べ、雇用をしっかりと守りましょうということを中心に訴えています。様々な職場で使用者側と雇用者側が連帯して、「オール山形」で対策にあたりますようにしています。実はその中で、大学生の皆さんの話も話題になっています。それは、コロナで医療関係者の皆さんへの誹謗中傷と言いますか、病院に勤めているということで、その子どもさんが「お父さんやお母さんが病院に勤めていると、コロナがどうのこうの」という誹謗中傷を受けたりしています。そういった医療関係者の方たち、本当に頑張ってくれている人達が逆にそういった辛い思いをしている、何とかしなきゃいけないという話と併せて、大学生のみなさんもいろいろ大変だという話がでてきます。やっとな対面の授業が始まったようではございますけれども、なかなか授業も出来ない、なかなか今はバイト先がないとか、様々そういう話が出て、何とか大学生にも支援が出来ないかということ「オール山形」の会議で話し合いがなされている状況です。山形県の知事、副知事、経営者団体の代表、産業界の代表、介護関係、医療関係、サービス業関係などいろんな人が結集して今のコロナ禍の中での状況を脱したい。山形県の行政が中心となってなんとかコロナ禍で労働者であれば雇用がなくなった、解雇されたとならないようになんとか手立てをしましょうとか。大学生であれば、山大学生だけではなくて、生活が大変な状況があって、なにか支援ができないかということで「コロナ対策応援金」という仕組みを作っていて、応援金を集めて、少しずつ困った人にお渡しをする。そんな仕組みを「オール山形」でも作っていることでもあります。皆さんに届いたかどうかはちょっと分からないのですが、困っている方に何か出来ないかということもあって、「オール山形」という立場で、コロナに負けず、いろんな立場の方々が元気に生き抜いていけるようにといった話し合いを続けています。実はその中で労働組合として、労働界の代表として参加をしています。ですから今日のいろんな問いもありますけれども、是非コロナ禍の中でこういった点はなんとか出来ないのかといったことがあれば、安田先生でもいいですし、私まで送っていただいても結構なので、是非教えていただければ「オール山形」の会議でも今の学生の皆さんの声ということで、しっかりと届けたいと思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

今日的な役割の一つとして、働くものの意見を行政であったり、関係機関に届けるということも労働組合の重要な役割かなと思ひています。また、今日このようにして皆さんとこういった時間を作っていただいているということも労働組合としての大切な役割だろうと思ひていますので、是非そんなことをちょっと頭の方に入れていただければと思ひます。

2 特に、大事にしたいこと

「寄附講座に期待すること」と書いてありますけれども、皆さんは数年後に社会に出られるということでありますので、どういった関係の職場に出られるか、それぞれいろんな夢があるかと思ひます。その時に役立つような講座になれば嬉しいなという思ひでありますので、是非よろしくお願ひをしたいと思います。

最初の質問ですが、たぶんこれは聞いたことないと思ひますが、今特に大事にしていること、連合山形の話はまだちょっと後にしますけれども、「アンコンシャス・バイアス」知っていますか。初めて聞いたという方、初めてですよ。実は連合もこれから各職場に、今日皆さんにお聞きすると同じようにアンケートをしたり、調査をして、いろんな運動に活かしていこうとしています。今後、大事にしていきたいという内容であります。連合ではいろんな運動をしていますけれども、大事にしていることの1つが「多様性を認める」ということです。

今日集まっている皆さんでも一人一人いろんな価値観があり、考え方がそれぞれ違っていると思ひます。違う価値観を認め合えるような社会にしなければいけないということで政策の提言をしたりしています。今大事にしたいということが「多様性を認める」という前の「アンコンシャス・バイアス」に気づこうということ。意味は「無意識の思ひ込み」「無意識の偏見」というのだそうです。例えば、男はこうでなければいけない、女はこうでなければいけないとか、そういうのも含めていろんなことがあるだろうと思ひます。いろんな職場の中で、そういった無意識で行われていることで、考えてみるとちょっとおかしいなということに気付ける感性を持ちたいと思ひます。

そういった運動を今始めようとしているところです。これから連合全体として、全国の様々な職場で、「無意識の偏見」にまず気付いて、それを改めるようにしていきましようという動きがスタートさせようとしてい

ます。プリントに書きましたけれども、いろんな職場に溢れているアンコンシャス・バイアスという無意識の偏見に「気付くこと」そのものが私達連合で目指している「真の多様性」を認め合える職場への第一歩となるのではないかなそんな思いでおります。

問1です。「あなたが考えるアンコンシャス・バイアス」何かありませんかということで是非、皆さんからもヒントをいただければということで、第1問としました。皆さんが考える「無意識の偏見」はなんですか。ちょっと考えていただきたいと思います。(机間巡視しながら)

どんどん進んでいらっしゃる方もいるようです。アンコンシャス・バイアスも含めて、3ページに問2「どの国が入るでしょうか」ということで、予想で結構ですので、日本・韓国・アメリカ・イギリスを入れてみてください。あとで聞きたいと思いますのでよろしくお願いします。さて、どなたか、問1「アンコンシャス・バイアス」について書きましたという方いらっしゃいますか。

3 学生が考えるアンコンシャス・バイアス

(学生) はい。アンコンシャス・バイアスは、「正社員の立場が、パート・アルバイトのそれより上にあるのか」と書きました。

(小口) 「正社員の方は、アルバイトよりも立場が上である」と考えるという、確かに、そう思う方はいらっしゃると思います。

(学生) 自分は、「女性が上司にコーヒーを持ってくる」とか、アンコンシャス・バイアスだと思いました。(小口) 同じように書いた人いませんか。「コーヒーを出す、お茶を出すのは女性だ」そういうのはアンコンシャス・バイアス。いらっしゃいませんか。なかなか普通と思っていることがちょっとどうなんだろうかと、そんなこと自体が難しいかと思えます。どうでしょう。他にどうですかね。

(学生) 「自分に出来ることが、他人にも当たり前出来ると思込んで、それを押しつける」

(小口) 自分には簡単に出来ると、自分が出来るということを他の人にも出来て当然でしょと押し付ける。これはアンコンシャス・バイアス、無意識の偏見になるんじゃないかなと。そういうことってありますよね。正社員はアルバイトよりは立場が上なんだからね、偉いとか、あとはお茶とかコーヒーなんかは女性が出すものです、みたいなものはアンコンシャス・バイアス。どうですか。

(学生) 「血液型で、相手の性格とか、性格を気にする」

(小口) たぶんこの辺は同意できますと言いますか、「血液型で性格を決めつける」アンコンシャス・バイアス、同じだという人いませんか。たぶん日常生活で無意識のうちにはいっぱいあるだろうと思います。私は小学校に勤めていたということで、そこから考えるとあるんですけども。たとえば、男女別の並び方とか、こうやっているとバラバラですよ。男子も女子もバラバラに座っている。卒業式では、こちら側が男子とか、こちらは女子とか、ありませんでしたか。あとは、今ほとんどないけれども、前だとランドセルは男の子が黒、女の子は赤とか、そういうのが普通になっていたというそんな時代もありました。そういうのもアンコンシャス・バイアスなのかなとそんな思いをしています。ちょっと書いてもらいましたが、是非、さっき発表してもらったのを参考にしていただいて、同じだな、それも無意識の偏見じゃないかなというのもあれば、それも是非書いておいてください。

〈まとめ〉

性別 38 年齢 7 非正規 6 労働時間 6 (長い方がよい、飲み会参加=仕事に熱心)

学歴 4 職種 1 障害者 1 外見 9 血液型 6 その他 15 の結果でした。

*初めて聞くという割には、いろんなアンコンシャス・バイアスを書いてくれました。すばらしいですね。

4 どの国が入るでしょうか？

では続いて問2ということで、「どの国が入るでしょうか」という問題です。そこは書き終わりましたか。こちらを書いた人、出来上がっているようなので、次の「どの国がどこに入るでしょうか」、最初は諸外国の高等教育の教育にかかる財政支援で、対GDP比とあります。2018年です。「GDP」聞いたことがあるかと思えます。日本がいろんな産業、すべての総生産量がどれくらいあるかということです。個人ごとではありません。日本全体の企業体の総生産と比べています。教育費、高等教育ですから、大学等も入ってきます。国ではどのぐらいの割合で支援をしているのでしょうかということです。平均が1.2となっています。OECDですので40カ国ぐらいです。先進国と言われている国が参加をして調査をしています、平均は1.2ということで

すから、1.7のオーストリアが1番教育に総生産から占める割合から見ると予算を使っているといえます。次はカナダが使っている。次がAで1.4、次がオランダ、スイス。ニュージーランドが1.2ですからほぼ平均という割合になっている。残念ながらイスラエルから0.9、オーストラリアが0.9、Cが0.8ですからちょっと平均よりも教育にお金をかけていないといえます。残念ながらDは0.5というのは、OECDの中では最下位に近い国であります。では、山形大学の授業料高いなと思う人。安いと思う人。何も思いませんか。高いと思う人、いない。40年前は、私も山形大学でしたが、授業料は18,000円でした。ですから年間では36,000円です。学年の1つ下から授業料は2倍になりました。どんどん高くなって今にいたっていると思います。簡単に言えば国から大学に助成金がきていますが、そういうのも全部関係していると思います。ただ大学もいろんな状況を維持するには費用がかかりますから、国の助成金や皆さんからの授業料などで、どうやって予算を確保していくかと、そういったことが絡んでくると思うんです。その下が授業料の国際比較です。国公立の大学です。アメリカドルだそうですけども、一番高いのはBです。2番目に高いのがA、3番目がD、そしてちょっと間をおいてCということになっています。じゃあこれは聞いていきたいと思います。まず日本はどこに入りますか。A・B・C・D、日本はAだと思う人、B、C、D、はい。日本はD。GDPから見ると最下位レベルです。国の総生産の中の割合的には教育にいろんな助成をしていないということです。残念ながら、そういう状況が日本です。下の授業料を見ると、3番目に授業料が高いという金額になっているということでもあります。それでは、日本が分かったのでお隣の韓国はどうですかね。A、B、C、はい。Cが正解ですね。日本がD、韓国がCということです。この2つの資料だけだと、韓国は総生産の割合から見ると教育費にそんなにお金は掛けているとは言えないかもしれないですね。ただ授業料的に見ると、これ平均がないので何とも言えないのですが、この資料の中だけだとそんなに高いという方にも入っていないのが韓国と言えらると思います。あとAはどこだと思いますか。ちょうどOECD財政支援では平均、但し授業料は高い、Bは何にしましたか。アメリカでしょうかイギリスでしょうか。アメリカにした人、はい。イギリスにした人、はい。実は、ここはイギリスが正解です。意外とアメリカという感じに見えますけれども。一応、問題を作ったので全問正解いらっしゃいますか。3問正解、3つの国が正解しましたという人は、あれ、いないですか。2つの国正解、ありがとうございます。全問正解はいないんですよ。実は、この資料はどこから持ってきたかっていうと、連合で今教育政策という、義務教育から大学まで、専門学校も入れているんですけども、教育改革の政策提言をしていますが、最初の資料として使っているのがこの高等教育の教育にかかる財政支援というのと、授業料の国際比較ということで、この資料をもとにして教育政策はスタートしています。皆さんも知っているように、憲法で言えば、義務教育は無償ですと謳われているわけですから、その趣旨にどうやって近付けるかというのが連合の1つの大きな目標になっているということです。

それが、その前の「連合ビジョン」とありますけれども、その中の1つに「教育改革」ということで、そちらの方の政策などについても連合としてはつくっています。そういうことであります。

〈まとめ〉

A国 日3 韓10 米58 英23 B国 日4 韓4 米22 英64

C国 日11 韓76 米2 英5 D国 日76 韓6 米10 英2 が正解です。

*結構、高い正答率といえるのではないのでしょうか。労働組合が教育問題を考えるのはピンとこないという学生もいました。一応、答えておきました。

5 連合ビジョン

2ページに戻っていただいて、「連合ビジョン」というのをつくっております。2ページにあります。私達が言っているのは「働くことを軸とする安心社会」。一生懸命働くことで、安心して生活ができるという、当たり前だと思うのですけれども、そういった社会にしなければいけないと思います。正社員は偉くてアルバイトは偉くないという、そういう働き方ではないということでもあります。ですから私達は、連合に参加している労働組合は当然ですけども、参加していない労働者、たとえば、アルバイトの方や派遣の方、そういった方も含めて何とか労働条件を良くしようとしています。すべての労働者を対象として運動を展開しています。

皆さんもいろいろ話を聞いたことがあると思いますが、2ページに書きました。「社会の変化、人口減少、超少子高齢化社会」です。あとは、AIとか、ILOなど、技術革新が進んでおります。経済も変化しております。労働者の変化を見ると、パート、有期契約、有期というのは、何年契約とか、期間が決まっているという契約です。派遣会社からの派遣労働という方もいらっしゃいます。そういった方が今、働くすべての人の約

4割と言われております。年収が200万円以下の労働者の方が1,100万人を超えているという状況が今生まれております。そういった中で私達は、なんとしても労働者の「格差」を無くさなければいけないと思っております。そういった職場、労働条件をなんとか皆さんでつくっていきましょうといった運動を展開しております。さっき言いました、教育制度であるとか、社会保障制度、税制改革などの政策提言なんかもしているということでもあります。

連合山形のスローガン、これは連合全体の大変格好いいスローガンです。「わたしたちが未来を変える」、これが運動のテーマです。たとえば、自分達の職場はどうも雰囲気が悪いとか、どうも上司が自分の価値観を押し付けるな、そういうのを何とか変えましょうと仲間と話し合いをして職場づくりをするということです。2年かかったら職場が大変明るくなりましたとか、上司も私達の意見を聞いてくれるようになりました。となれば、そういったことが「わたしたちが未来を変える」ということにつながっていると思います。社会を変えるそのスタートだろうと思っています。そんな思いで様々な取り組みをしているということです。

6 コロナ対策の要請行動

例えばということで、コロナ感染がありましたので、連合山形としては、今日の資料の7ページにありますけれども、各組織の実態を調べて、その実態から様々な要請行動、7ページが先程言いましたが、県の方ですね、「オール山形」とは山形県の会議でありますけれども、山形県知事の吉村美栄子さんですが、2度ほど要請に行っています。1回目は、皆さんも覚えていると思いますが、2月に全国の小・中学校が全て休校になった時に行きました。大変困りましたね、あの時は。子ども達が休みになったということで、お家の方はじゃあ急に仕事を休めますか、休めませんね。じゃあどうやって子どもを見るのですかということも含めて、大変問題になりました。学校は急に休みになったけれども、子ども達の居場所をちゃんと作って下さいとか、保護者の皆さんの仕事や生活をしっかり守って下さいといった要請書を連合山形は持って行きました。さまざまな中小企業の団体もいっぱいありますので、山形県経営者協会、中小企業団体中央会、経済同友会、商工会連合会、様々な産業の団体にも持って行きました。働いている人達の雇用をしっかりと守っていきましょう、職場に労働者がいなくなれば、将来的にその企業は継続できません。無くなってしまいますということで、使用者側も労働者も一緒になって雇用を守る必要があるということを訴えてきました。要請行動の資料が7~10ページまであります。10ページの一番後ろにありますけれども、これが「オール山形」という会議です。正式名称は「新型コロナ克服・創造山形県民会議」という会議になっています。さっきも言いましたが、すべての働く人たち、そして大学生の皆さんも含めて、コロナの中で大変な思いをしているという人がたくさんいます。なんとか1人でも多く救えないかという動きをつくっています。山形県を中心にして、いろんな業界で力をあわせて頑張っていきたいということを訴えてきました。これは連合山形のニュースでありますので、見ていただければと思います。

7 ワーク・ライフ・バランス

4ページの「ワーク・ライフ・バランス」、これは聞いたことありますよね「ワーク・ライフ・バランス」。仕事と生活のバランスを取りましょうということです。先ほど安田先生に聞かれました。中体連未亡人という、今言葉ほとんどないですね。何十年も前の話ですね。ちょうど私が小学校の職場にいた時に、小学校の先生で、旦那さんが中学校の体育の先生。旦那さんの方は、土日ほとんど家にいない、毎週が部活。部活動が大好きな旦那さんでしたから、小学校の奥さんの方は「私は中体連未亡人だから…」とニコニコ言いながら話をしてくれました。それが中体連未亡人です。それは本当に昔の人であれば「うちの人は好きだから仕方ないな。あんたがんばってよ」という人はいたのかもしれませんが、今ではそれはもう離婚問題になります。二人して中学校の体育の先生となればもう大変です。いい教育活動をするためにも上手にワーク・ライフ・バランスを取らなければいけないと今は強く思っています。

「24時間働けますか」というコマーシャルもありました。これもNOです。命を失います。「夜間長距離 NO」と書きましたが、以前は、長距離トラックの運転手さんは夜間長距離を希望する若い方がいらっしたそうです。夜間だと賃金も上がりますし、時間の自由もききました。そういった中で長距離夜間を希望するという方はいらっしたと聞いています。しかし、現在はそういった方はほとんどいないそうです。やはり夜働くよりは昼働きたいとなっているそうです。そして「授業参観 YES」と書いたのは、これは反対の例なんです。私が小学生の頃は来てもお母さんだけでした。来ても母だけです。こない人もいました。それから何十

年経って、今、小学校に行くのと両親で授業参観という方が珍しくありません。なかなか変わってきていると思います。運動の大会の応援についても同じです。今はお家の方が当たり前のように出ていらっしゃるかもしれませんが、昔はほとんどいないという状況であったと思います。当然、休日とか家庭サービスについては「YES」とそんな状況になっています。どちらが良いとか悪いとかそういう意味じゃなくて、仕事をするうえでも心身の健康、生活の豊さを考えても、是非バランスは重要ですよということで、そういった運動をしています。

8 仕事と生活で大切にしたいこと

問3です。「仕事と生活で大切にしたいこと、あなたの思いは何ですか」と書いてみました。是非、ここも気軽に書いてみて下さい、どうでしょう。仕事と生活で大切にしたいこと。

(学生) 私が「仕事と生活で大切にしたいこと」は、休みが確実に保証されていることです。

(小口) はい、休みがしっかり保証されている大事です。保証されていたのだけれども、最近はどうも保証されないという時はどうしますかね。

(学生) そういう時は、労働センターに行くようにして対策をとります。

(小口) 労働センターとか、労働組合とかね、組合があれば組合に相談するとか、いろいろあるかと思います。

(学生) 時間的、金銭的な心の余裕です。

(小口) 確かにね。時間的にも金銭的にもね、大変だと余裕ないもんね、やっぱりね。急に景気悪くなって、賃金が減らされますとなったらどうしますか。

(学生) 働くうえで、我慢するか、他の仕事を探します。

(小口) 他の仕事を探すというのもあるし、労働組合では賃金の交渉もするんでね、一緒に下げないでくれとか、もし下げても2年後にまた景気良くなったら改善してくれとかいう約束事を決めて頑張るといいう方法もありますね。はい、どうでしょうか。

(学生) 自分が大切にしたいことは、プライベートの時間がしっかり取れることです。

(小口) そうですね、プライベートの時間がしっかり取れること。頑張ればほとんど取れると思います。どんな仕事でも。ただ言わないと取れないという可能性もあるしね。勤務時間外であれば取れると思って、頑張る。

(学生) プライベートに仕事を持ちこまない。

(小口) プライベートに仕事のことは持ち込まないということをお願いしたい。どうですかね。

(学生) 家族との時間を十分に確保できるようにすることです。

(小口) プライベートを大切に、家族を大事にする。小学校の先生になりたいなと思っている人いますかね。子ども達との教育活動をやってみたいなという人いますか。最近、先生方の長時間労働とかいろいろ言われているんだけれども、私が最後に勤めたちょっと小さい学校なんだけれども、すごく良いなと思ったのは、ワーク・ライフ・バランス、8時間働いて8時間休んで8時間こうしますと、きちんとできれば良いんだろうけども、それもなかなか出来ません。忙しい時は忙しいし、ただなんとか短くても取るということが大事なんだと感じました。ある日、学校に行きました。結構遠い学校で1時間ぐらいかけて学校に着きます。組合員の女性の先生と朝、会っておはようございますとあいさつをしました。彼女は1年生を担当していて、私は5年生を担当していました。2時間目に下に降りて行って1年生の教室の前を通りかかったら、教室に女の先生がいないのです。よく見たら教務主任の男の先生が代わりに授業をしています。その女の先生はどうしたんでしょうかという、ちょうど高校生の息子さんが野球の大会があったそうです。高校生最後の大会だということで、何とか休みを下さいとお願いをして、教務主任が「そうか、だったら、代わりに授業をしましょう。」となりました。女の先生は朝学校に出勤をしたけれども、その後、休みを貰ってすぐに息子さんの球場に向かったということでした。私はそういうのもワーク・ライフ・バランスじゃないかと思うんです。学校で子ども達が下校しました。「いやー、今日も一日頑張って仕事をした。疲れた。ちょっと茶飲みしましょう」とテーブルに集まってお茶飲みをよくしました。その中で「いやあ、昨日ちょっと休みを貰って息子の野球を見て来たのよ。最後の試合を見て来たのよ」という話を聞くと、「おっ、そりゃよかったね」とか「結果はどうだったの」とか、その先生の息子の話になる。自分の家庭じゃないけれども、高校生生活最後の応援が出来てよかったねとか、そんな話が同僚とお茶を飲みながら自然に出来るという職場の雰囲気はワーク・ライフ・バランスの取れているとも言えるんじゃないかと今思い出しながら

思っています。学校にいる時には学校のことだけ、家庭のことは一切考えないと割り切らないで、やはり「家でこういう大変なことがあって、ちょっと悪いけど明日早く帰りたいのよ」と、同僚に話をしておけば、「ああ、分かった。じゃあ、その後はしておくから。だから明日は早く帰れよ」という環境をつくっておけると思っています。それはワーク・ライフ・バランス、家庭もしっかり大事にするということになるのだと思います。

さっき賃金の話もありました、給料もありました。労働組合があれば、労働組合に代表者がいますから、代表者が掛け合ってくれることになります。使用者側と賃金やボーナスについて交渉してくれる。また、休みが取りにくいということがあれば、それはなんとか取りやすいようにしましょうとかも交渉してくれます。労働条件と言いますが、その労働条件を良くしましょうといった交渉も労働組合の代表者がしてくれます。ですから代表者はいろんな職場にいる仲間のいろんな声を聞いて、もっとこういうふうにしたいという要望を組合としてまとめて、それを使用者側、代表者に提出をします。そして話し合いをしていく。そして自分達で職場の雰囲気を作っていく。さっきの連合山形で言うところ「自分達で未来をつくる」ということです。自分たちでより良い職場環境を自分たちでつくるということになっていくんだと思います。

9 労働組合の役割

あっちこっち行ってすみません。「労働組合が果たすべき役割」と書きましたが、それは、今話したような中身ではあります。労働組合は憲法でも認められています。第28条の「勤労者の団結権」があります。だいぶ前ですけども、5年前に、東京で「首都圏高校生ユニオン」という労働組合が結成されたという記事もありました。その前には、大学生の組合、高校、大学生が一緒につくったユニオンができました。ユニオンというは1人でも入れるという労働組合です。学生により労働組合が結成されたというニュースもありましたが、こんなニュースを覚えているという人はいませんか。高校生が労働組合をつくりました、大学生が労働組合をつくりました。そんなニュースがありました。たぶんネットだとすぐ出てくると思いますが。大学生だとあれですよね、バイトをしていて次のような問題がありました。今はコロナ禍なのであれだけでも、「試験があるのでこのシフトを外して下さい」と言った時に、「ダメだ。君に休まれたら困る」と、「じゃあ私の試験はどうするんですか」という事態に陥った方々が労働条件の改善を求めて労働組合をつくって労働条件の改善を求め立ち上がったというニュースであります。これも昔は考えられない世界です。アルバイトはアルバイトですから。ましてや大学生のアルバイト。昔はもっともっと優遇されていたと思いますけれども、まったく普通の労働者と同じようにシフトがあてがわれて忙しい、試験があるに関係なく働きなさいというのは全くこれはナンセンスだと思います。まさにブラックバイトと言えるのではないかと思います。

法的なことを言えば、労働基準法という労働の法律があります。時間外、決められた時間、最大8時間と労働者が決められていますから、それを超す場合には協定を結ばなくちゃいけないというのが36協定という協定になります。これは使用者側の代表と労働者側の代表でしっかりと36協定を結ばなければいけない。結ばないで時間外労働をさせたとなると、それは法律違反ということで罰則が科せられるとなります。ちなみに連合では36協定ということで、これは労働基準法36条なので36協定というんだけれども、3月6日は「36の日」(サブロクの日)という記念日を作って、運動を展開しているということです。3月6日は毎年春から36協定をしっかり結んで、時間外労働に従事しましょうということ、そんな運動を今やっています。

そして、今の労働組合の状況ですけども、連合山形はだいたい5万人弱ぐらいですけども、全国では700万人を超えている状況で、全国的には800万人、なんとか1,000万人に増やしたいという思いで運動をしている。

11 労働者自主福祉運動、エッセンシャル・ワーカー

連携をする主な団体ということでそこに書きました。山形県労働者福祉協議会、こくみん共済coop、東北労働金庫などです。こういった方々が、この講座にきますので、是非、どんなふうに仕事をしているのか、是非知っていただければと思っております。すべての労働者の方の生活がより豊かになることを願って活動しています。

下の方に書きましたけれども、2021年の活動計画を書きました。「重点分野 1 集团的労使関係」ちょっと面倒くさい中身ですけども書きました。これは労働組合と使用者側、どっちが偉いとかではなくて、同じ立

場で話合いができるという関係を「集团的労使関係」と言います。その関係をしっかりしたいということと、下に書きました「エッセンシャル・ワーカー」と書きましたけども、今はライフラインを守る、電力であったり、水道であったり、そういった無くてはならない、交通、運輸などもそうですけれども、そういった職業で働く方を「エッセンシャル・ワーカー」としてはいますけれども、そういった方々というのは、あらゆる職業に通じるのではないかということで書かせてもらいました。

おわりに 「SDGsです。」

それでは、終わりにと書きましたけれども、SDGs、これも聞いたことあると思います。「持続可能な開発目標」ということで、1番からずっと書いてみましたので、是非読んで下さい。本当にその通りだと思います。1番が「貧困をなくす」ということです。まだまだ多くの国で貧困で苦しんでいます。そして2番に「飢餓をゼロ」、まだ飢えで子ども達が亡くなっている、そういった国もまだまだあります。学校に行けないといった子ども達もまだ多いという状況でありますので、17の開発目標です。サステナブル・ディベロップメント・ゴールズ、「持続可能な開発目標」と言います。2030年まで、そういった世界を目指してすべての国で取り組みをしていきましょうという運動がSDGsということですので、すでにスタートしておりますので、これについても皆さんと一緒に取り組みをしていきたいと思っております。

ちょっと長々となりましたけれども、最後に問4です。コロナ禍で感じられたこと、たくさんあったのではないかと思います。その辺を書いていただいて、今日の講義は終了したいと思います。ご清聴ありがとうございました。

問4 コロナ禍で感じたこと 〈抜粋〉

授業12 「遠隔授業の中で、一人ですべてやるのは難しかった。」「大学生だけがずっとオンラインでの学びになっていて疎外感を感じた。また、コロナにかかった人への対応も心が痛くなるようなところが多かった。」

経済面 26 「バイトが減ってしまい、とても不安だった。」「学生という存在はやはり弱い立場であって周りの友達も解雇されたり、バイトに入れてもらえなかったり、蔑ろにされがちだと感じました。改めて、労働組合という存在は大切だと感じました。」「物の支援もうれしいが大学生に対する金銭面の支援もお願いしたいと思った。」

人間関係 15 「地域の人々が互いに協力し合いコロナ禍に対して立ち向かっていた反面、他人に対して誹謗中傷が寄せられるといった件も多々見受けられました。多様性を排除しようとするのではなく受け入れる姿勢をもっと増やしていく必要があると思いました。」

就活が不安 10 「コロナ禍で内定取り消しなどといったニュースをよく目にしたため、自分が就活をする時期にはどうなっているのか不安である。」

働き方の変化 7 「リモートワークでも仕事できていたので、出社することは絶対必要とは言えないと感じました。」

その他 11 「社会全体で協力することの大切さ。」「病人としていたわるべきコロナ感染者を誹謗中傷する考えや風潮は無くすべきである。」

感想から 「アンコンシャス・バイアスを考えるときに、全然思い浮かばなかったが、他の人の意見を聞くと共感できるものが多くあったため、自分が思っているよりも無意識の内に思いこんでいるものがたくさんあると新発見できた。」「ワーク・ライフ・バランスの充実はとても重要な考えであると感じるが、同時に実現することが難しいとも感じる。特に今日のコロナ禍において私たちは改めて「ワーク・ライフ・バランス」について考えていかなければならないと感じた。」

「今日の講義を通して、労働に対する考え方を改めて学ぶことができた。特に、アンコンシャス・バイアスにおいて非常に共感できた部分があった。また、諸外国における高等教育の財政支援で、比較的日本は世界各国の中でもGDP比に対する財政支援がかなり少ないことに驚いた。」など

☆世界的なコロナ・ウイルス感染拡大というこれまでに経験のない事態にこれまでの通常の生活が失われてしまった。大学生もその大切な1年間が突然失われる恐怖や不安に襲われることとなりました。